第1回･2回審議会　主な発言趣旨･補足意見（統合版）

※重複して掲載している意見があります。

１　望ましい学級数に係る発言

〇　一定の人数がいれば少人数の学級も容認する発言

＜第１回＞

・自分自身が小学生だった時のことを思い起こしてみると、１学年１学級、１学級 10 数人の時代だったが楽しく過ごせた。ところが子の世代、孫の世代になり少人数の状況がもっと進んで学校が統合されていった。

〇　小さめの規模が望ましいとする趣旨の発言

・子どもが幼稚園、保育所に行く年齢になったタイミングで移住することになったが、「大きなところじゃなくて、少ない人数で育った方が、この子たちにはいいかな」と考え、学校規模は判断材料の１つではあった。

〇　複数の学級があることが望ましいとする趣旨の発言

・クラス替えが毎年ある学校は子どもたちがとても新鮮で、高め合いもできているという雰囲気がずっと培われている。

・子どもたちはどうしてもトラブルも起すので、一緒のクラスにしない方がお互いうまくいくだろうな、という子どもたちがいたりする。

・学年が１クラスだけだと、どうしても最後までこじれてしまい、人間関係を上手く直せないまま６年間過ごさなければならなくなるケースもある。

・その点、中学校は複数クラスあるので、入学の機会にクラスを入れ替えることもできる。

〇　複式学級・過少人数の学級には懸念を感じる趣旨の発言

・「小学校は生徒が少ないから、ちょっと気の毒だ」という意見の方が多いと感じている。

・「少人数で、もっと伸び伸びと子どもたちが学校でやっている姿を見たい」という意見は「ちょっと違うなと」思っている。

・最近になって幼稚園、保育所に行く子は２、３人に増えた。周りの人もお年寄りの方も「子どもが増えたら喜ばしい」とは言われるが、幼稚園や小学校に行くときには「そんな少人数で大丈夫なのか」という意見の方が強いんじゃないかなと思う。

〇　学力・人間関係の観点からの発言

・学校やクラスの規模について、「保護者の立場から方から望ましい」、「子どもの側からみて望ましい」という議論・意見がある。もう１つの見方としては、学校教育として学校の教員がより良い教育ができる環境が大切だ、ということがある。

・学力や人間関係力など、保護者の願っている力を少しでもつけていける環境を大事にしていかなければいけないと考えている。

・小学校教員を目指す学生たちには「一番は授業」「一人一人を大事にした授業」、さらに「今求められているのは、色々な考え方を持った人たちが、対話的に考えを出し合い、高めていき、合意形成を図る協働的な学び」が大事にされているという話をしている。そのような授業や教育活動ができる条件や環境を少しでも整えられる「望ましい学級数や人数」という視点から考えていく必要があると思う。

２　望ましい１学級あたりの人数に係る発言

○　複式学級・過少人数の学級を容認する発言

＜第１回＞

・少人数の学校があるということに納得して移住されている方もいる。

・小規模の学校なので、子どもたちは地域の人たちから守られ大切にされており、家族のような温かさが学校の中にある。

・規模が小さくても住んでいる地域の学校で学ばせたいという保護者もいる。

＜第２回＞

・各学年に４名から５名ずつぐらい子どもがいる学校は複式学級だったが、１年、３・４年、５・６年、と低・中・高学年でくくれる学校の組織から生まれる文化があった。そこでは高学年が優しく低学年を指導するとか、中学年や低学年は、頑張っている高学年を見て「あんな高学年になりたい」とか、学校全体が家族のように温かく、地域も温かく過ごせていた。

○　複式学級・過少人数の学級の課題に係る発言

＜第１回＞

・教える立場のものとしては、一定の人数がいる方が豊かな学び合いができる、意見も出てくる、行事等の活動の幅も広がる、というのは当然だと思う。

・小学校でも委員会活動などの特別活動で社会性や自治能力を育てていくのだが、人数が少なすぎて子どもたちの力を伸ばしきれないとか、先生も入らないと行事が回っていかないというつらさがある。

・一人で学習している教科、学年があり、話し合い活動をする、とか多数の意見を聞いてそれを分析していく、という学習においては、教員や低学年にもアンケートに協力してもらうことで数を確保しなければ成り立たない苦労がある。

・大勢の子どもたち、同級生の子どもたち、１学年上の子どもたち、１学年下の子どもたちはどう考えているのか、ということを踏まえた学習ができれば、より子どもたちの力が伸びるのではと思っている。

・高学年の子がいないときは子どもたちだけの集団で遊びをすることができなくて、職員が子どもたちと一緒に遊ぶという状況が生まれている。子どもたちだけで遊ぶ力というかルールを決めたりするという力もつけてあげたい。

・地域で大切にされている一方、同級生がいないと友達関係の中で認めたり認められたりという関係がない。

＜第２回＞

・複式学級の学校では人数が少ないことから、授業の中で子どもたちが意見を出し合い、もみ合い、高まっていくということは難しく、担任としては苦労した。

・現状で言えば、２年生がいないから、１年生と３年生とがドッキング、５年生がいないから４年生と６年生とドッキングしているという変則複式では隣接学年で勉強することができないので、その学年に応じた内容にカリキュラムを組み直し、時間割も本当に複雑な時間割を組んで、その子たちの学習レベルに合う内容で授業をしており、苦労はつきない。

・人数が少なくなってくるとその学年だけでは活動はできにくく、他の学年にお願いしたり、運動会では中学生の手伝いがなければ準備等ができないうこともあった。

・人数が少ないと、子どもたちが校区外に出ると自信をなくしてしまう、ということもあった。

・長谷小の子どもたちは、素朴でとても優しい子が多かったと思うが、早くからもっと多い人数の中で過ごしていたら、中学校生活もまた違ったものになったのではないか、と感じることがあった。
・「小学校は生徒が少ないから、ちょっと気の毒だ」という意見の方が多いと感じている。
・「少人数で、もっと伸び伸びと子どもたちが学校でやっている姿を見たい」という意見は「ちょっと違うなと」思っている。
・最近になって幼稚園、保育所に行く子は２、３人に増えた。周りの人もお年寄りの方も「子どもが増えたら喜ばしい」とは言われるが、幼稚園や小学校に行くときには「そんな少人数で大丈夫なのか」という意見の方が強いんじゃないかなと思う。
・小学校の間は１学年の人数が少ないので、教員からいろんな役割を与えられ自分でやりこなしていくということに慣れていたと思うが、中学校に入学して、生徒同士という場面が多くなっていく中では、なかなか自分から声が上げられないっていうようなことがある。
・長谷小出身の中には、大勢の人数の中では思うように自分を出せず、学校に行きにくくなったという生徒もいたように思う。
・長谷小出身者が例えば６人いて、その全員を中１で同じクラスにしたら、友達関係の広がりは他の小学校出身者よりも１歩遅れ、２年生３年生になるにしたがってその差が広がっていくことになる。
・長谷小の子どもは、中学校入学という取っかかりの時期に１歩遅れてしまうなこともあったのかなと思う。
・中学校に入学してからのことを考えたとき、長谷小の子どもたちがもっと早くから他の小学校の子どもたちと同じような経験をしていたら、もっと積極的に色々なことに挑戦できたのでは、と思っている。
・「中１ギャップ」とよく言われるが、これは何も長谷小にかぎらず、全員にある。ただ、特に長谷小出身の生徒については、少人数から大人数になるという中学校生活での戸惑いとか気後れ、仲間関係、友達関係のプレッシャーに配慮し、入学後１年生の間は同じクラスにする、という対応をしている。

○　一定の人数がいる学級の方が好ましいとする発言

＜第１回＞

・教える立場のものとしては、一定の人数がいる方が豊かな学び合いができる、意見も出てくる、行事等の活動の幅も広がる、というのは当然だと思う。
・小学校でも委員会活動などの特別活動で社会性や自治能力を育てていくのだが、人数が少なすぎて子どもたちの力を伸ばしきれないとか、先生も入らないと行事が回っていかないというつらさがある。
・一人で学習している教科、学年があり、話し合い活動をする、とか多数の意見を聞いてそれを分析していく、という学習においては、教員や低学年にもアンケートに協力してもらうことで数を確保しなければ成り立たない苦労がある。
・大勢の子どもたち、同級生の子どもたち、１学年上の子どもたち、１学年下の子どもたちはどう考えているのか、ということを踏まえた学習ができれば、より子どもたちの力が伸びるのではと思っている。
・高学年の子がいないときは子どもたちだけの集団で遊びをすることができなくて、職員が子どもたちと一緒に遊ぶという状況が生まれている。子どもたちだけで遊ぶ力というかルールを決めたりするという力もつけてあげたい。
・地域で大切にされている一方、同級生がいないと友達関係の中で認めたり認められたりという関係が

ない。

＜第２回＞

・個に応じた指導や細やかな指導をしていくという点で、教師 1 人で全員の子どもたちを見るという力量が試されるぎりぎりの人数が 40 人かなと思う。

・ある程度の人数がいると子どもどうしの関わりがあるのは確かだが、あまりにも大人数になりすぎると難しさもでてくる。

・人数が多い場合、教員は「今日あの子としゃべったかな」とふと思ったり、子ども 1 人 1 人が見えてなかったり、と感じることも多い。

・規模が小さい学校では、よく子どもたちが見え、担任としても子どもたちへの関わりはすごく多いなと感じた。

・クラスの人数は、多すぎるよりもちょっと少な目の方が子どもたちとの関わりは深くできる感じがする。

・長谷小の状況が本当に「望ましい学級数」「望ましい 1 学級の人数」なのかはわからないが、長谷小のように人数の少ない学校で学ばせたい、という保護者は今もおられる。

・学校やクラスの規模について、「保護者の立場から方から望ましい」、「子どもの側からみて望ましい」という議論・意見がある。もう 1 つの見方としては、学校教育として学校の教員がより良い教育ができる環境が大切だ、ということがある。

・学力や人間関係力など、保護者の願っている力を少しでもつけていける環境を大事にしていかなければいけないと考えている。

・小学校教員を目指す学生たちには「一番は授業」「一人一人を大事にした授業」、さらに「今求められているのは、色々な考え方を持った人たちが、対話的に考えを出し合い、高めていき、合意形成を図る協働的な学び」が大事にされているという話をしている。そのような授業や教育活動ができる条件や環境を少しでも整えられる「望ましい学級数や人数」という視点から考えていく必要があると思う。

○　学校の規模や学級の人数については迷いがある発言

＜第１回＞

・１学年に１人、２人という中で学ばせるのがいい状況なのかどうかを考えないといけない状況なのかなと感じている。

・自分の子どもは、少人数の状況しか知らないので学校は楽しいと言っているが、中学生になったときに急に人数が増えたときにはどうなるのだろうか、という心配もある。

・寺前小学校も神崎小学校も、10 年先、20 年先を考えるとおそらく過小規模になっていると考える。保護者の中には複式学級がいいという人もいれば、いやだという人もいるだろう。

・子どもたちがだんだん少なくなっていって、大勢の中で育つということが少なくなり寂しく思う。ただ子どもたちは至って元気で楽しく学校生活を送っている。これは先生方がすごく努力されているので笑顔でいるのかなと思っている。

・移住してきた人から、「この学校があったからここに来た」という話を聞いた時はうれしかった。ただ、「学校が無くなったら寂しい」という地域の人の声や「大勢で一緒に学んだ方がよいと思う」、という声を聞くので自分としては悩んでいる。

・過小規模の学校はずいぶんと悩まれながら努力を重ねて今の学校を維持されているのは間違いないと

思う。

・小さい小学校から中学校に通学するようになったとき、どういう適応をするのかという心配があるが、実際のところはどうなのか知りたい。

＜第２回＞

・長谷小の状況が本当に「望ましい学級数」「望ましい１学級の人数」なのかはわからないが、長谷小のように人数の少ない学校で学ばせたい、という保護者は今もおられる。

○　その他

・資料をみると、少人数のメリットは大人数のデメリットで、大人数のメリットは少人数のデメリットになりうる。言ってみれば、今の状況っていうのが、もう望まれたことであるんじゃないかなと思う。

・「人数は多い方がいいから人数多くしましょう」と言っても人数を多くできるというものでもない。

３　神河町立学校における少子化に対応した教育活動上の工夫に係る発言

○　行事での工夫

・人数が少ないと、子どもたちが校区外に出ると自信をなくしてしまう、ということもあった。そこで、和太鼓の取組の中で外へ出かけたり大勢の前で太鼓を叩く経験もさせて、自信を持たせていった。環境学習の発表で県大会に行ったり、福島県で情報教育の実践報告をした子どもたちもいた。

・生徒会の会長や専門部の部長・副部長になったり、合唱コンクールで指揮者や伴奏者を務めるなど、行事で中心的な役割を担っていく中で、認められたりやりがいを感じたりすることができたら、その後は自信を持って生活している。自己有用感とか所属感を持たせていくことが大事であると思っている。

・行事を経ることによって仲間関係の中でお互いが認め合って、少しずつ馴染んでいき、堂々とできるようになっていくと感じている。

○　交流学習の工夫

・校内だけで「多様な意見を引き出す学習」は難しいので、町内の隣接の学校に行き、大人数の中でともに学習する交流学習に取り組んだ。その場合、教員も移動しての打ち合わせになるので苦労した。

・神河町では、自然学校と修学旅行以外に、子どもたちが幼稚園や小学校にいる間に色々な活動を一緒に行ったり交流していたことに驚いている。

・長谷小が寺前小と交流授業をしたり、臨時で神崎小に行って「にじいろ教室」や「命の大切さ学び教室」という授業を一緒に受けたり、３小学校が自然学校で一緒に過ごす４泊５日の経験などが中学校に入学してからの交友関係の広がりにいい影響を与えていると感じている。

○　クラス編成での工夫

・特に長谷小出身の生徒については、少人数から大人数になるという中学校生活での戸惑いとか気後れ、仲間関係、友達関係のプレッシャーに配慮し、入学後１年生の間は同じクラスにする、という対応をしている。

・中学校入学当初は、教員は意識して子どもたちに寄り添って声をかけるなど、波に乗るまで一生懸命頑張り学級を築いていっている。そのような働きかけがあるので、子どもたちは中学校生活のスタートを無事切ることができていると感じている。多少の個人差はあるにせよ、１年生の間に大体馴染んで、しっかりと中学生活が送れるようになっていると思っている。

４　小学校区に係る発言

○　選択的な校区の制度を容認する趣旨の意見

＜第１回＞

・寺前小学校も神崎小学校も、10 年先、20 年先を考えるとおそらく過小規模になっていると考える。保護者の中には複式学級がいいという人もいれば、いやだという人もいるだろうから、少しずつでよいので今の校区をなくしていって欲しいと思う。

・今の地域に住みながら特定地域選択制を活用して違う校区にある学校に通わせたい、という保護者もいる。

＜第２回＞

・小規模特認校制度は、選択肢を子どもたちの側が持てるという点で共感する。

・「望ましい数はこうだ」とかいうのは経営側の話であって、今までは行政なり教育委員会が「全国的に不登校等いろいろな状況がある現状では、選択肢があって、大きいところとか、地域性のあるところとかというものが選べるような状態であれば、その方がいいんじゃないかと感じる。

・小規模特認校と特定地域選択制については、保護者と教育課との話し合いの中で導入をお願いした経緯がある。

・未就学の子どもの保護者の中に、長谷小の校区に住みながらもっと多い人数の学校で学ばせたい、という思いがある方がおられ、「特定地域選択制を導入できないか」とお願いをした。

・逆に「ほかの学校から長谷小の方に行きたいという保護者もおられる」という声もあがった。

・家一軒しか違わないのに校区が区切られているというのは、何かおかしな話だなと、ずっと思っていた。

・越境入学のような制度があれば、例えば４キロも歩いて行かなくても、１キロほど歩いたら学校に行けるようにできるのでは、と思う。校区という考え方をなくしたらどうか、ということを考えていこうかなと思っている。

・家が校区の切れ目にあることで小学校まで４キロ歩かなければならないとか無料でバスに乗れるとかに分かれていることについては困った課題だと感じている

○　選択的な校区の制度の課題に係る発言

・校区の際のところにある家が、学校まで遠いという理由で隣の校区に行くと、その校区の学校の人数が少なくなる、という問題が起きる。

・小規模特認校とか特定地域選択制を導入することで、長谷小に行く子どもが増えるのはいいかな、と思うが、結局全体の人数・パイは変わらなくて、分散するだけになる。集まったパイも、少子化の中ではこれからはどんどん小さくなっていく、ということも踏まえて考えていかないといけないのかな、と感じている。

・校区があることで通学距離が遠くなったり近くなったりということがあるが、総合的な観点から現在の校区になっていると思う。

５　地域との関わりに係る発言

＜第１回＞

・小規模の学校なので、子どもたちは地域の人たちから守られ大切にされており、家族のような温かさが

学校の中にある。
・移住してきた人から、「この学校があったからここに来た」という話を聞いた時はうれしかった。ただ、「学校が無くなったら寂しい」という地域の人の声や「大勢で一緒に学んだ方がよいと思う」、という声を聞くので自分としては悩んでいる。
・学校が統合するたびにそれぞれの学校が持っていた文化が消えていってしまって残念だと感じている。
・地域にとって学校はどういう立ち位置なのか、どうして残してほしいと思うのか、ということを地域自身でもう少し議論してほしいと思う。
・学校があることによって地域はどんな恩恵を受けているのか、ということを各地域で協議することによって自分たちが住んでいる地域がどんな地域なのかということを再発見することにもつながると思っている。
（補足意見から）
・（学校が統合される場合は）地域の方々が参加してきた各学校行事や特色ある行事を、新しい学校でも継承、開催できる仕組み作りをお願いしたい。
＜第２回＞
・町の合併の頃から見ると、小学校の人数は大変少なくなっている。ここ２、３年、運動会や学校の行事にいろいろ関わるが、昔ほど地域の人が学校に来てくれない、ということがある。
・地域としては、「小学校が地域に無いのはいけない」という意見は、昔程ではなくなったのかな、と思っている。昔だったら、「子どもは地域にいてくれなければだめだ」ということを言っていたが、最近はそういう意見がほとんどない。逆に、「小学校が少ないから、生徒が少ないから、ちょっと気の毒だ」という意見の方が多いと感じている。
・直接「地域として学校を残してくれ」という意見はほとんど聞かない。
・小学校の子どもたちが、先生に指導されて授業や運動会をしている、というのはよくわかるが「気の毒だな」という意見の方が強い。
・「少人数で、もっと伸び伸びと子どもたちが学校でやっている姿を見たい」という意見は「ちょっと違うなと」思っている。
・移住してきた方たちは「地域で子どもたちが守られている」とか「見守られて成長している」とかいう意見を言われるが、それは「ちょっと違うかな」と思っている。
・今までも今も、地域としては「守る」とか「見守る」ということを特に意識せず、普通に子どもたちが生活しているのを見ていた。ただ、最近は子どもが少なくなったから、子どもと関わるときに「大事にする」とか「見守る」というふうに見えたり感じられる部分が増えただけじゃないかな、と思う。
・最近になって幼稚園、保育所に行く子は２、３人に増えた。周りの人もお年寄りの方も「子どもが増えたら喜ばしい」とは言われるが、幼稚園や小学校に行くときには「そんな少人数で大丈夫なのか」という意見の方が強いんじゃないかなと思う。
・神河町は小さな町なので、妊娠した時から妊産婦へ保健師が指導され、「保健師さんは町民全部を知っている」というぐらいよく関わっており、神河町に住んでいると、校区は違うけれど何となく「あの人知っている」ということがある。
・生まれたときから中学校 3 年生まで繋がっているのが神河町の子育てで、中学校で神河町としての教育は 1 つの完成形を迎えて、高校に進学した後はみなあちこちへと散らばっていくという形で、地域

の特性がうまく中学校に活かされていると感じた。

６　小学校と中学校の接続に係る意見

・中学校に入学してからのことを考えたとき、長谷小の子どもたちがもっと早くから他の小学校の子どもたちと同じような経験をしていたら、もっと積極的に色々なことに挑戦できたのでは、と思っている。
・1 年生は、4 月から適応している生徒もいる一方、部活に所属していない生徒の場合は、共通の話題がやっぱり少ないというようなこともあってなじみにくい、というのが 1 つの課題と思う。
・特に長谷小出身の生徒については、少人数から大人数になるという中学校生活での戸惑いとか気後れ、仲間関係、友達関係のプレッシャーに配慮し、入学後 1 年生の間は同じクラスにする、という対応をしている。
・行事を経ることによって仲間関係の中でお互いが認め合って、少しずつ馴染んでいき、堂々とできるようになっていくと感じている。
・生徒会の会長や専門部の部長・副部長になったり、合唱コンクールで指揮者や伴奏者を務めるなど、行事で中心的な役割を担っていく中で、認められたりやりがいを感じたりすることができたら、その後は自信を持って生活している。自己有用感とか所属感を持たせていくことが大事であると思っている。
・中学校入学当初は、教員は意識して子どもたちに寄り添って声をかけるなど、波に乗るまで一生懸命頑張り学級を築いていっている。そのような働きかけがあるので、子どもたちは中学校生活のスタートを無事切ることができていると感じている。多少の個人差はあるにせよ、1 年生の間に大体馴染んで、しっかりと中学生活が送れるようになっていると思っている。
・生まれたときから中学校 3 年生まで繋がっているのが神河町の子育てで、中学校で神河町としての教育は 1 つの完成形を迎えて、高校に進学した後はみなあちこちへと散らばっていくという形で、地域の特性がうまく中学校に活かされていると感じた。

７　通学方法に関する発言

＜第１回＞
・子どもの数が少なくなり、子ども会が成り立たなくなっている。
・今後は、登校班も成り立たなくなっていくと考えている。
・朝の登校準備の子どもの行動をみていると、親が送り迎えをする場合は子どもの甘えが強い。しかし登校班で通学する場合は、ほかの子のことを気遣った行動をとることができているように思う。
・同じ区内で、学校までのわずかな距離の差で徒歩通学とバス通学が分かれるという現状がある。
・保護者の送り迎えについていうと、特に朝の時間帯はあわただしい上、子どもの甘えもありストレスも多く、保護者にとっては負担が大きい。
・体力のことを考えると、必ずしもすべてバス通学がいいとは思わない。
・登下校時の安全確保に関わり、熊の出没も課題となってきている。
・昨年は熊の出没などのこともあり、登校班に合流するまでの間一人になる子どもの保護者が非常に心配されていたこともある。
・安全を考えれば、スクールバスにこだわらず、子どもたち全員を、例えばコミュニティバスやデマンド

バスなどで通学させるという方向にシフトしていくという考え方もあるのかなと思う。
・熊の件など、安全を脅かす問題だというふうに考えると、今後、全ての子どもたちをスクールバスで、ということも必要なのかなとは思う。ただ、一方で、子どもたちが歩いて登校する道すがらいろんなことを見聞きして学んでいく、ということがそがれていく、という弊害をどう捉えるのかという課題もある。
（補足意見から）
・統合により通学距離が長くなる児童が増えることが予想される。朝の登校時間帯でも気温が高く、重いランドセルを背負っての徒歩は熱中症のリスクが高い。交通事故対策、熊対策、不審者対策など多くのメリットがあるため、スクールバスの導入をお願いしたい。保護者にとっても、送迎の負担が減り、共働きでも安心して通学させられる。

８　その他、包括的な発言

＜第１回＞
・１学級当たりの最少人数、最大人数というのはあるのか、知りたい。
・移住して来られる方がいるのは理解できる。一方、校区の学校が小さいということで移住をためらう人もいるのではないかと思うが、そのような事例があれば教えてほしい。
（補足意見から）
・通学環境や特色ある行事の継続、子どもたちのケアについて、十分な検討と配慮の上であれば、小学校統合の方向性について基本的には賛成と考える。
・（学校が統合される場合は）いちばん影響を受けるのは子どもたちなので、スクールカウンセラーの活用など、サポート体制の整備をお願いしたい。
・特認校制度について（県内事例、制度の内容など）の詳細説明が欲しい。
・特定地域選択制について（県内事例、制度の内容など）の詳細説明が欲しい。
・学校規模として、子どもたちの社会性を育むための児童数を知りたい。
＜第２回＞
・1 学級当たりの人数については、文科省では決まった考え方があるが、ここで議論しているのは「神河町の望ましい学級数、あるいは 1 学級当たりの人数」であり、校区についても「神河町立小学校の校区の考え方」ということでこの地域限定の考え方であると理解している。
・家族の支えがなければ、子どもも 1 歩前へ進めないと考えている。
・すでに現在の校区が決まっていて、それぞれの学校がその学校の人数で運営する状況の中で、我々委員に校区のあり方を問われても、何を話したらいいのか分からないというのが正直な思いである。
・校区を考えるということだが、これまで学校を統合する中で現在の小学校区割になっている。今後、学校が統合されるとかがない限りは、我々委員が考えて決めることができないものと思う。
・「統合」ということも含め「望ましい形になるように何とかしていこう」ということに意見を出し合う方がよいという気がする。
・校区の議論より、通学の方法とかそれにかかる補助、安全面の担保などに焦点を当てて議論する方がよほど有益だと思う。

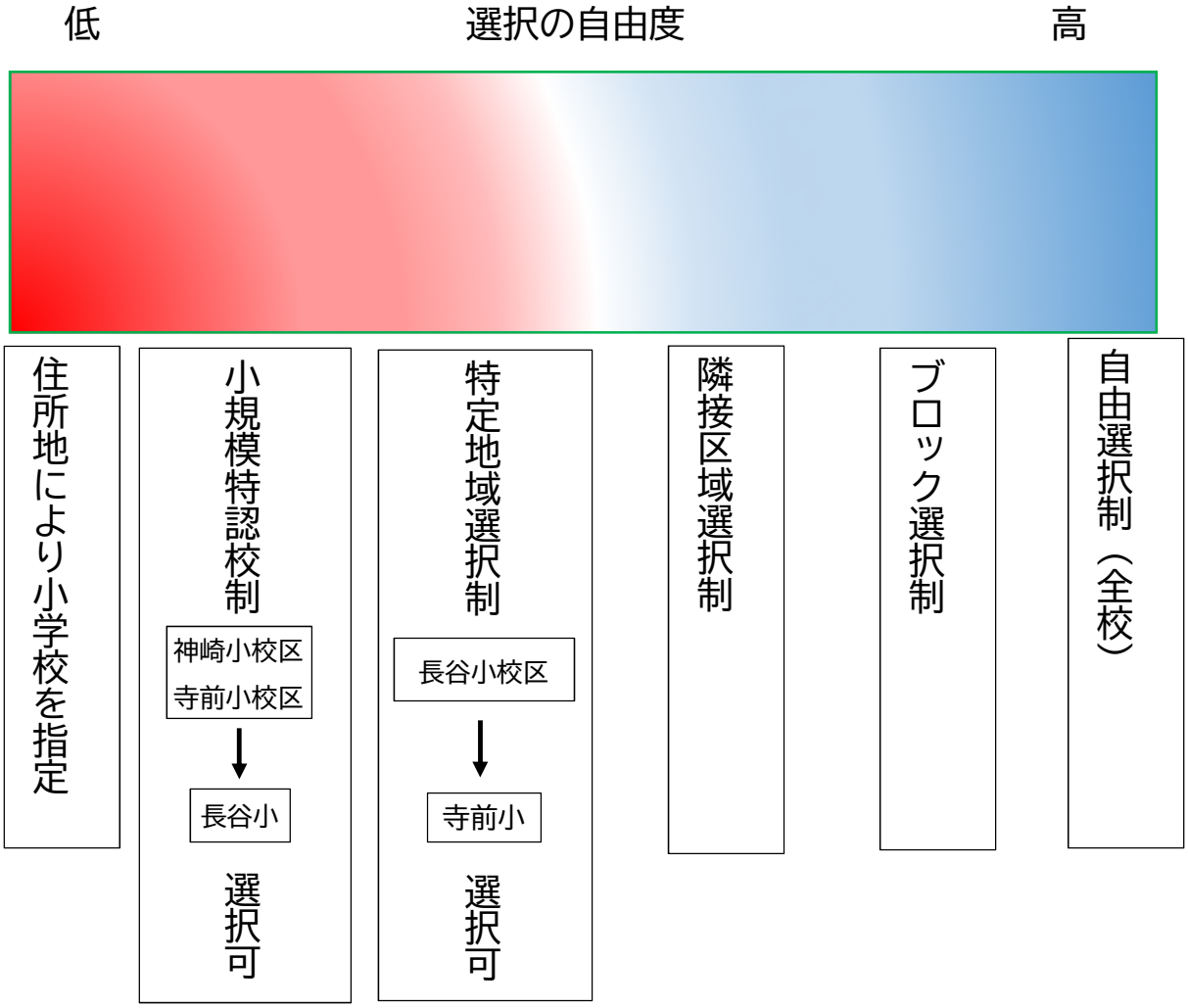
９　補足意見

① 学校が多くあれば、費用が多くかかる。通学費用はどうするのか。

② 神河町立小学校の校区の考え方

旧町に１校は小学校があった方がよいと思います。それぞれのコミュニティ等の現状を考慮して。

（学校選択制のイメージ図）



自由選択制	当該市町村内の全ての学校のうち、希望する学校に就学を認めるもの
ブロック選択制	当該市町村内をブロックに分け、そのブロック内の希望する学校に就学を認めるもの
隣接区域選択制	従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校に就学を認めるもの
特定地域選択制	従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者について、学校選択を認めるもの
特認校制	従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるもの

【資料３】

神河町立小学校及び中学校の今後の在り方について（答申）（枠組み素案）

表紙

神河町学校教育審議会
令和８年３月

目次

１．神河町立学校適正規模・適正配置方針の答申にあたって・・・・・・・・・・P
２．期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P
３．学校数と児童生徒数の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P
４．神河町立小学校・中学校の望ましい学級数・・・・・・・・・・・・・・・P
５．神河町立小学校・中学校の望ましい１学級当たりの人数
６．神河町立小学校の校区の考え方
７．神河町立小学校及び中学校における小中連携・接続の考え方
８．今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P
９．参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P

本文

１．神河町立小学校及び中学校の今後の在り方についての答申にあたって

神河町では、第３期「かみかわ教育創造プラン」の成果と課題を踏まえ、令和７年度から 11 年度までの５年間における神河町の教育の指針となる第４期「かみかわ教育創造プラン」を策定し学校教育の充実に取り組まれているところです。

・・・・・

・・・・・

２．期間

この答申による提言期間は、令和８年から令和○年の概ね○年間とし、・・・・・・・・・・・・・・。

・・・・・。

３．学校数と児童生徒数の変化

昭和 40 年代、旧神崎町および旧大河内町には計 11 校（小学校９校、中学校２校）がありましたが、平成 17 年の合併直前には、越知谷第二小学校と越知谷第一小学校が統合し 10 校となりました。・・・・・

・・・・。

４．望ましい学級数

（１）国の規準

学校規模の標準は、学級数により設定されており、小中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」が標準とされていますが、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでないと示されています。

・・・・・。

（２）神河町立小・中学校の学級数、１学級当たりの人数の現状

３校ある小学校については、いずれも国の示す適正規模の範囲内（小学校：12 学級～18 学級）にある学校は無く（１校は複式学級）、１校ある中学校についてのみ国の示す適正規模の範囲内（６～11 学級）にあります。

・・・・・。

【審議会での各委員の主な意見】

・　・・・・・・・・・・・・・・・。

・　・・・・・・・・・・・・・・・。

・　・・・・・・・・・・・・・・・。

これらを踏まえ、神河町立小中学校の望ましい学級数については、次のとおり提言します。

①　・・・・・・・・が望ましい。
②　ただし、・・・・を考慮すると・・・・・・が望ましい。
③　・・・・・を研究・検討することが望ましい。

５．小学校の校区について

（１）国の基準

公立小中学校の通学距離について、小学校でおおむね４㎞以内、中学校ではおおむね６㎞以内という基準が法令等で定められています。

ただし、・・・・・・。
・・・・・・。

（2）神河町立小学校の校区について
・・・・・・・。
・・・・・・・。

【審議会での各委員の主な意見】
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
これらを踏まえ、神河町立小学校の校区については、次のとおり提言します。

①　・・・・・・・が望ましい。
②　ただし、・・・・を考慮すると・・・・・・が望ましい。
③　・・・・・を研究・検討することが望ましい。

６　神河町立小学校及び中学校における小中連携・接続の考え方
(1)小中一貫校
既にある小中学校を組み合わせ、めざす子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成するとともに、それに基づき系統的な教育を行う学校のことをいいます。学校の立地によって、施設一体型、施設分離型、施設隣接型があります。
(2)義務教育学校
一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育９年間の学校教育目標を設定し、９年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校をいいます。義務教育学校の設置を可能とする改正学校教育法が平成 27 年６月に成立し、平成 28 年４月１日に施行されました。学校の立地によって、施設一体型、施設分離型があります。
【審議会での各委員の主な意見】
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
・　・・・・・・・・・・・・・・・・。
これらのことから、神河町における小学校と中学校の連携・接続については以下のとおり提言します。

①　・・・・・・・が望ましい。
②　ただし、・・・・を考慮すると・・・・・・が望ましい。
③　・・・・・を研究・検討することが望ましい。